

松山大学大学院言語コミュニケーション研究会

第 12 回例会 特別講演会

● 日 時：2018(平成 30)年 12 月 21 日(金) 受付:15 時 30 分～

● 場 所：松山大学樋又キャンパス H2A 教室

※伊予鉄市内電車環状線「清水町」駅下車、徒歩約 5 分(松山市駅→鉄砲町駅約 20 分)

※大学ホームページ(<http://www.matsuyama-u.ac.jp/>)ご参照のこと

● 参加費：無料(学内外者問わず)

◆研究科長挨拶(16:00～16:05) (松山大学大学院言語コミュニケーション研究科長)

◆特別講演 (16:05～18:00)

題 名： ウォルター・クレインの絵本——ヴィクトリア時代、絵本はここから始まった——

講 師： 正置 友子先生

※ ご専門は絵本学、つまり、印刷技術、哲学、歴史、文学というよりもナラトロジー(物語論)、美術、教育学等を、絵本という視点から研究した総合分野

要 旨： イギリスで、150 年前のウォルター・クレインの絵本に出会い、その絵本デザインの美しさに衝撃を受け、それから 6 年間イギリスに滞在し、ウォルター・クレインを核としてヴィクトリア時代(1837-1901)の絵本を、大英図書館、国立美術図書館(ヴィクトリア&アルバート・ミュージアム内)、オックスフォード大学図書館などで 1 冊 1 冊と見ていき、*A History of Victorian Popular Picture Books*として纏めた。結果として、世界で最初の本格的なヴィクトリア時代の絵本の研究書となった。ヴィクトリア時代は、職人の技が生きた時代であり、なおかつ、人類史上初めて大量の造形の複製を製造することが可能になった時代であった。すなわち、表現に、人の手と機械が結び合ったのがヴィクトリア時代であり、その花のような成果が絵本であった。ウォルター・クレインの絵本は、ヴィクトリア時代の爆発するようなエネルギーを背景として、芸術と職人の技が結合し花開いた絵本文化であった。

【特別講演講師紹介】

正置 友子(まさき・ともこ)

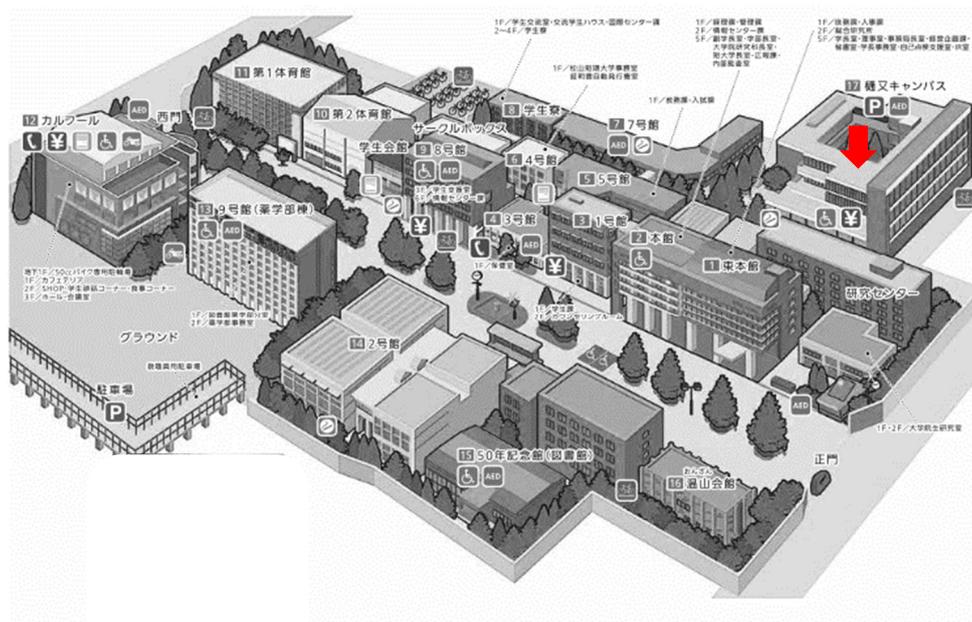
1940年、名古屋市に生まれる。愛知県立女子大学文学部英文学科卒業。結婚と同時に吹田市の千里ニュータウンに住む。1973年青山台文庫を開設(現在も主宰)。1994年イギリスのローハンプトン大学大学院に留学。2000年イギリスのヴィクトリア時代の絵本研究論文により博士号を取得し、帰国。2001年イギリスで初めての「日本絵本原画展 イン イングランド」をイギリス3か所で開催。2001年青山台文庫で「だっこでえほんの会」(赤ちゃん絵本の会)をスタート。2006年「戦後60+1周年子どもの本・文化プロジェクト」の実行委員長として、「あそこ、こんな子どもの本があった—戦中・戦後の絵本から教科書まで—」展および「日米交流子どもの本・文化セミナー」を大阪歴史博物館で開催。2007年国際児童文学学会(IRSL)の実行委員長を務め、国際会議場(京都)に25か国から400名の参加者を迎える。2009年聖和大学大学院教授を定年退職し、絵本学研究所を開設。毎年、国際大会で研究発表を行う。2017年日本で初めての「ウォルター・クレイン展」(滋賀県立近代美術館ほか)に関わる。



「あそこ、こんな子どもの本があった—戦中・戦後の絵本から教科書まで—」展および「日米交流子どもの本・文化セミナー」を大阪歴史博物館で開催。2007年国際児童文学学会(IRSL)の実行委員長を務め、国際会議場(京都)に25か国から400名の参加者を迎える。2009年聖和大学大学院教授を定年退職し、絵本学研究所を開設。毎年、国際大会で研究発表を行う。2017年日本で初めての「ウォルター・クレイン展」(滋賀県立近代美術館ほか)に関わる。

主な著書: 『おかあさん、ごはんと本とどっちがすき』など「絵本の散歩道」シリーズ5巻(創元社)。A History of Victorian Popular Picture Books(英文 風間書房。この著書により、子どもの本についての優れた歴史的な研究であることが高く評価され、イギリスの子どもの本歴史協会より2008年ハーベイ・ダートン賞を受賞)。『保育のなかの絵本』(かがわ出版)。50代での6年間のイギリス留学の暮らしと研究の日々を綴った『イギリス絵本留学滞在記』(風間書房)。哲学とく子どもと絵本を結ぶ世界で最初の論文『メルロ＝ポンティとく子どもと絵本』の現象学—子どもたちと絵本を読むということ—(風間書房)。訳書として、絵本理解の基本的な研究書として名高いジェーン・ドゥーナンの『絵本の絵を読む』(共訳、玉川大学出版部)、など。

【キャンパスマップ】



特別講演は非常に混雑が予想されますので、お早めにご来場ください。

(開場 15:30~)

問い合わせ先:

松山大学教務部教務課 大学院言語コミュニケーション研究科担当

電話:089-925-7111(松山大学代表)